

組織目標評価報告書(平成30年度)

15

部局名: 大学院保健学研究科

部局長名: 竹田 芳弘

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<ul style="list-style-type: none"> ・助産師養成コース、がん看護専門看護師養成コース、医学物理士養成コースなどのコースワークを推進する。特に前期課程の助産師養成コースの充実と修了者の助産師資格獲得を推進する。 ・生殖補助医療技術キャリア養成特別コースについては学部・大学院一貫体制での教育を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院への入学者数はほぼ例年と同様で、定員数確保もほぼ達成できた。特に助産師養成コースでは入学希望者も多かった。耐災安全・安心に関する人材育成特別プログラムコースでは、修士課程で2名の修了者があった。がん看護専門看護師養成コースでは内容の充実化を目的に授業科目を38単位に増やしているが担当教員の退職もあり履修者がなかった。次年度に向けて今後の教員確保などの対応について検討した。 ・生殖補助医療技術キャリア養成特別コースでは、今年度も学部生の履修者がコースを修了した。
①-2 年度計画との関連	①-2 大学全体への貢献
教育・研究の質の向上と社会人教育	・社会人大学院生に対して様々なコースワークを設定することでリカレント教育を推進することができた。
①-3 目標とする(重要視する)客観的指標	
博士前期課程、後期課程入学者数 助産師、がん看護専門看護師、医学物理士の資格取得者数 生殖補助医療技術キャリア養成特別コース修了者数	<ul style="list-style-type: none"> ・大学院入学者数: 博士前期課程28名(定員26名)、博士後期課程が9名(委員10名) ・助産師養成コース資格取得者: 10名 ・中国・四国高度がんプロ養成基盤プログラム 医学物理コース資格取得者: 4名 ・生殖補助医療技術キャリア養成特別コース修了者: 5名
②研究領域	
②-1 目標	②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<ol style="list-style-type: none"> 1. 研究の実施体制ならびに実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・保健学研究科内における分野間での共同研究やヘルスシステム統合科学研究科などの他研究科との共同研究を開発、推進する。 ・研究開発・推進委員会において、研究科の研究推進の方向性についてさらに分析、検討を行い若手教員、大学院生の研究推進を援助する。 2. 研究資金の獲得状況 <ul style="list-style-type: none"> ・科学研究費の採択率を維持するとともに、外部資金の獲得に努める。 ・研究力のある若手教員、女性教員の採用に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究開発・推進委員会において分野内の研究業績を把握し、分野間での共同研究のシーズについて検討し、研究推進の方向性を検討した。さらに、若手教員の科学研究費獲得のために申請書類の添削などの支援を行った。 ・若手教員(准教授、講師、助教)、大学院生のグローバル化に向けた研究推進のため、昨年度に続いて英論文校閲料補助を行った。さらに次年度に向けて若手教員、大学院生の国際学会発表への援助を進めていく。
②-2 年度計画との関連	②-2 大学全体への貢献
異分野を融合した新たな研究科との研究推進 グローバルに活躍できる若手研究者の育成	・若手教員、大学院生への研究推進を進めることができた。
②-3 目標とする(重要視する)客観的指標	②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
保健学研究科博士前期課程への岡山大学医学部保健学科からの入学者数 学位論文数、国際共著率 科学研究費応募数、科学研究費採択率 受託研究、共同研究	<ul style="list-style-type: none"> ・学位論文数(博士前期・後期課程修了者): 博士前期課程27名(看護14名、放射6名、検査7名)、博士後期課程4名(看護4名) ・若手教員に対して申請書類の添削を行い、科学研究費応募数、採択率を上げる取り組みを進めた。
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標	③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組
<ul style="list-style-type: none"> ・周産期医療、地域母子保健に関するスタッフのスキルアップやリカレント教育による「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラムを継続し、履修者の養成を行う。 ・地域における保健講座や職能団体の委員会に参加・協力して地域保健医療に貢献する。 ・大連医科大学(中国)大学院との O-NECUS(岡山大学-中国東北部大学院留学生交流)プログラム協定による短期留学生の受入れを推進する。 ・海外からの留学生を増やすために保健学研究科の広報を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラムにおいて、主として助産師・看護師を対象として、産科医療、生殖医療、地域母子保健、保健教育などの広い分野において、エビデンスに基づく科学的な視点を持ち、母と子の支援に関与できる人材を養成することを目的とし、産科超音波検査、周産期医療、NICU 医療、死産女性への支援、妊娠中からの子ども虐待予防、子育て支援、性教育等を内容としたカリキュラムを行い14名の履修修了者を出した。次年度も同様の事業を進めるために19名の履修者を選出した。 ・看護協会などの職能団体からの要請を受け、専門性を活かして委員会委員としての活動をした。また、行政等からの要請を受け、災害支援活動(大学の役割、学生の学び、社会貢献等)に向けた取り組みを行い、成果をあげた。 ・全国の中学、高校、教育委員会などからの依頼を受け、教職員、社会人、学生に対しての講義・研修などを行い高い評価を得た。 ・O-NECUS(岡山大学-中国東北部大学院留学生交流)プログラム協定により、保健学研究科として初めて3名の留学生を受入れた。 ・海外からの留学生を確保するために広報委員会において保健学研究科の紹介ビデオを作成した。
③-2 年度計画との関連	③-2 大学全体への貢献
国際通用性のある医療人育成	・保健医療の分野で地域社会も含めて様々な活動を行い、社会人のリカレント教育などにより国際性感覚を持った医療人の育成を推進することができた。
③-3 目標とする(重要視する)客観的指標	③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況
「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム修了者数	・広報活動を進めることで「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラムにおいては、16名の履修希望者があり、うち、13名がプログラムを修了した。

④管理運営領域	
④-1 目標 ・研究科長室会議、運営会議、教員連絡会によるガバナンス機能を強化する。 ・女性教員の高比率の維持と上位職への登用を進める。	④-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組 ・研究科長室会議、運営会議を毎月行い、研究科や各分野の現状の問題点を洗い出し、将来構想を検討することができた。 ・教員連絡会を2ヶ月に1回開催し、部局連絡会や研究科長室会議での重要事項の伝達をするとともに教員間での問題点を拾い上げ、検討することでガバナンスの強化を図った。 ・人事凍結解除後の教員採用で2名の女性教員を採用した。
④-2 年度計画との関連 ガバナンス機能の強化 ダイバーシティの推進	④-2 大学全体への貢献 ・女性教員の採用によりダイバーシティの推進に貢献することができた。
④-3 目標とする(重要視する)客観的指標 女性教員数、全教員数における女性教員数の割合	④-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況 ・教員公募により優秀な女性教員を2名を採用した。女性教員27名、全教員数における女性教員数の割合27/49=55.1%(3.1現在)
【総括記述欄】 全体的に各領域ともに今年度の目標は概ね達成できた。教育領域においては大学院の定員の確保も例年通りにほぼ達成できた。研究領域においては若手教員への支援により教員のグローバル化を推進することができた。	